

1 教育目標	「自ら考え、やりぬく子を育てる」	ひとりひとりを伸ばす教育を基盤にすえ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に努める。
--------	------------------	---

2 指導目標（めざす児童像）	・自ら学びよく考える子	・思いやりのあるすなおでやさしい子	・心身ともに健康でたくましい子
----------------	-------------	-------------------	-----------------

3 自己評価（達成状況）と学校関係者評価 【A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：できていない】

本年度重点指導事項	評価項目	評価	具体的な取り組み	取組の現状	来年度に向けた改善の方策
「確かな学力」の育成	①めあてを示し、自ら課題を見つけて主体的に取り組めるように工夫	B			
	②振り返りを行い、学び（成長）が実感できるように工夫	B			
	③協同的探究学習の手法を用いて多様な考えを引き出し、深めた	B	○「協同的探究学習」を取り入れた授業づくり	・学校図書だけでなく、ウエルネス図書館も活用し、調べ学習や並行読書を行ったが、活動の充実には課題がある	・研究紀要をもとに前年度の授業を活かそうにする
	④指導と評価の一体化を図り、児童の状況に合わせて授業を工夫	B	○学習の見直しやめあてを持たせ、成長を実感できる振り返りを工夫する	・一人一授業に取り組み、学年で指導案検討や事後研究も行った	・週末読書や親子読書、読書タイムの設定、遊文庫の復活など読書活動が習慣化されるための取り組みを行う
	⑤個に応じた指導で、基礎・基本の習得を図る	B	○ユニバーサルデザインの授業づくり		・当該学年までの学習の履歴を的確につかみ指導にあたる。（系統図作成の要あり）
	⑥学習支援が必要な児童への配慮	B	○児童の的確な実態把握に基づく補充的・発展的な学習の工夫	・児童の得意分野や興味関心に基づき、授業に参加できているので見直しをもって授業に参加できている	・協同的探究学習を充実するためにはどんな手立てがあるかなど研修を重ねる
	⑦モジュールを活用した計画的・継続的な反復学習	B	○各教科における「記録」「要約」「説明」「論述」等の言語活動の充実	・全教科において指導と評価の一本化に努めた	・コロナが落ち着いている時には、ペア学習やグループ学習を取り入れる
	⑧明確な評価基準による、指導と評価	B	○家庭・地域、公立図書館等と連携した読書活動の充実		
	⑨言語活動を充実させ、「ことばの力」の育成に努める	B			
	⑩相手を意識した伝え合い方を意図的に授業に取り入れた	B			
	⑪読書活動の充実	C			
「豊かな心」の育成	①安心して帰属できる学級づくり	B			
	②自主的な態度を育む学級活動	B			
	③いじめを許さない意識の醸成、心の通い合った学級づくり	A			
	④自主的な態度で取り組む児童会活動	B			
	⑤豊かな人間性、社会性を育むクラブ活動	B	○「アセス」「心の相談アンケート」「こころのアンケート」の効果的な活用による心の通い合った生徒指導の実施	・児童の発達段階に応じた命の大切さを学ぶ授業を行った	・生徒指導の報告は、全職員で取り組むという認識が必要である
	⑥連帯感、自己有用感を実感できる学校行事	B	○自主性を育てる特別活動と「いちご」を大切に育てる教育の充実	・コロナに対する学習を養護教諭と連携して全校で実施した	・保護者アンケートでいじめの項目が低いのは、学校の情報発信が低いのかも知れない。心の相談アンケートなどを実施した後はお知らせを発行すればよいのでは、
	⑦相手の目を見てあいさつ	A	○「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育の充実と人権教育の推進	・地域人材を活用した、キャリア教育の充実	・キャリア教育は何を目指す教育なのかを明確にし、両小独自の年間計画を作る
	⑧互いに認め合える、多様な他者との共生に向けた人権教育	B	○「なかよし農園など地域・家庭と連携した体験活動の充実とキャリア教育の推進	・週に一回の道徳授業を大切にしている	・他学年との交流を盛んにできるよう、工夫した活動を計画する
	⑨「考え、議論する」道徳の実施と授業時間の確保	B			・引き続き命の授業を行い、委員会の活動や掲示物を充実させ、命の大切さを実感させる
	⑩学年に応じた情報モラル教育	B			
	⑪コロナの正しい知識の浸透と偏見・差別を生まない人間関係づくり	A			
「健やかな体」の育成	①教科横断的な体験活動の実施	B			
	②地域人材等を活用したキャリア教育の充実	C			
	①運動の習慣化、体力を高める学習活動	B			
	②栄養教諭と連携した食育指導	B			
	③なかよし農園を絡めた食育の充実	B	○体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる体育科授業の工夫	・交通安全教室を昨年体験できなかった学年にも行えた	・交通安全教室で学んだことが実行できているか確認する場など、フィードバックする必要があるのではないか
	④遊び時間を確保し、健康で活力ある生活習慣の涵養を図った	A	○教育活動全体を通じた「ちよこっと食育」の推進	・「たのもののあな」の放送・掲示板・朝ごはんチェック・たよりなどを通して、ちよこっと食育に取り組んでいる	・なわとびを過年度設置し、体を動かす機会を増やす
	⑤マスク・手洗い等、感染症対策の徹底	A	○発達段階に応じた健康教育、交通安全教室や防犯教室を活用した安全教育の実施	・コロナ禍でもできる活動など、体育の授業の工夫	・サッカーコートを少し移動し、他のスポーツでもできる場所を確保する
	⑥養護教諭と連携したいのちを大切に保つ保健教育	A			・学年下校の在り方を考えていきたい
	⑦登下校指導等の安全教育	B			
	⑧けがの防止等の保健安全指導	B			
	特別支援教育の充実	①なかよし学級への理解、共に生きる思いやりの心の育成	B	○核内支援体制の確立とインクルーシブ教育システムの構築	・なかよし学級の児童も含め、誰もが居心地よい学級づくりを目指した
②なかよし学級との相互理解を深める活動を工夫した		B	○個別の指導計画に基づき一人一人の多様な教育的ニーズに応じた支援・指導の実施	・目々の子どもの様子を学年やSAと共有し、支援や指導を相談した	・高学年の教室にも教師を割り振り、支援が必要な児童を指導できる体制を整える
③特別支援教育への理解を深め、児童への適切な支援に努めた		B	○SC、SSW、関係機関等と連携協力した個別の教育支援の充実	・SC、SSWがうまく生かされなかった	・なかよし学級の交流会を全学年で行うようにしたい
④合理的配慮・支援を全教職員の共通理解のもとで実施		B	○交流、共同学習の推進による「心のバリアフリー」教育の推進		
⑤コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築		B			
教職員の資質向上	①個人目標の設定し、資質能力向上に向けて研鑽を積んだ	B			・ノー残業デー、ノー会議デーは同じ日に設定する
	②テーマに沿って校内研究が効果的に実施された	B	○業務・会議の精選及び効率化により児童とかわかる時間の確保	・勤務時間の適正化を意識して、業務遂行に取り組んだ	・会議の提案資料はパソコンのフォルダに入れ、確認するようにする
	③計画的に教育活動を実施し、評価に基づいて改善を行った	B	○「協同的探究学習」を取り入れた一人一授業の校内研究の実施	・コロナや欠席者の情報共有は職員や管理職と密に連携して行えた	・「例年通り」でなく、児童に生きる力をつけるために必要なことを意識して、業務や会議を行うようにする
	④校務分掌組織と協力体制	B	○教職員の情報共有と組織的な対応による協働体制づくり		・16：00以降の会議は見直しを。運営一戦だと長くなる
	⑤記録簿による勤務時間の把握	A	○ノー残業デー、ノー会議デーの完全実施と記録簿の活用による勤務時間の適正化	・記録簿の活用が勤務時間の適正化につながっているとはいえない	
	⑥定時退勤の実行	A			
	⑦自身の働き方の見直しと職務の効率化、勤務時間の適正化	B			
安心・安全な学校づくり	①校内・登下校・緊急時の危機管理、安全・防災教育の推進	B			
	②いじめの積極的な認知と情報共有・組織的対応	B	○「危機管理マニュアル」の活用と評価・見直しの実施	・今年度の安全点検、営繕の動きは素晴らしい	・訓練時に防火扉を閉めたり、ホースを伸ばしたりして教師も訓練を行う。また、水害や不審者対応、児童も教師も考えて行動できる避難訓練などを実施する
	③いじめの未然防止（温かい人間関係づくり）と早期発見	B	○地域・家庭との緊密な連携協力体制づくり	・防犯・安全マニュアルを新たに作成したが、活用までは行っていない	・問題行動が多い児童に対してはカウンセリング等、外部との連携を行う
	④SC・SSWと連携した、いじめ・不登校への適切な対応	B	○安全点検の実施と学校施設の適切な管理		
	⑤心の通い合った人間関係にもとづく生徒指導	B			
	⑥ケース会議等、生徒指導上の課題の情報共有と組織的対応	B			
開かれた学校づくり	①たよりやHPによる積極的な情報発信	B	○オープンスクールや適切な学校行事による教育活動の公開	・学年の取り組みや行事のこをできるだけHPや動画で配信できるように心がけた	・参観は年間行事になくとも時期を図って行う。オープンスクールのように分散できる工夫を行う。普段の姿を見せようというスタンスで取り組む。など何らかの形で実施したい
	②コロナ対応についての情報提供と共通理解	B	○学校運営協議会による地域とともによる学校づくりの推進	・家庭と協力して児童の育成に努めた	
	③保護者と連絡を密にして信頼関係の構築に努めた	B	○地域・家庭の教育力を活用した教育活動の工夫	・音楽会は保護者を招き公開することができた	
	④こども園・中学校との連携を工夫	C			・こども園・中学校とリモートをつないで交流を行う

【学校関係者評価】

- ・いじめ対策について、アンケートを行った後、お知らせを積極的に行ったりまとめを行うことは大切なことではないか。
- ・読書週間や読書活動の充実がまだ不十分と考えている教職員や児童、保護者が多いのでPIAとして図書予算を増やしていきたい。
- ・教職員の定時退勤の実行など、働き方改革が進んでいるようだ。教師が元気でなければ教育は充実しない。先生方の健康も留意してほしい。
- ・参観日や行事の開催が十分でなかった。参観日や運動会など予備日を作るなどの工夫をして、できるだけ行えるようにする方法を考えてほしい。
- ・学校HPはどのくらい見られているのだろうか。存在を知らない人もいる。もっとアピールを行い、内容も充実させてほしい。
- ・タブレットを使った読書の取り組みを増やしていくことができればよいのではないかと。